

平成 2 8 年 第 2 0 回

江戸川区教育委員会定例会会議録

日 時：平成 2 8 年 1 0 月 2 5 日（火）午後 1 時

場 所：教育委員会室

教育長	白 井 正三郎
教育長職務代理者	上 野 操
委員	松 原 秀 成
委員	尾 上 郁 子
委員	石 井 正 治

事務局	教育推進課長	柴 田 靖 弘
	学務課長	川 勝 賢 治
	指導室長兼教育研究所長	市 川 茂
	学校施設担当課長	高 橋 和 彦
	統括指導主事	中 山 兼 一

書 記	教育委員会事務局	
	教育推進課庶務係長	岡 田 隆 史
	同 主査	飯 田 常 雄

白井教育長	<p>開 会 時 刻 午後 1 時</p> <p>ただいまから、平成 2 8 年第 2 0 回教育委員会定例会を開催いたします。日程第 1、署名委員を決定いたします。上野委員と石井委員にお願いいたします。</p> <p>続いて日程第 2、議案の審議にまいります。</p> <p>はじめに第 4 1 号議案、江戸川区立学校設置条例の一部改正についてを審議いたします。本件は議会に上程される前の条例案に関するものであり、政策形成過程にある案件であることから、江戸川区教育委員会会議規則第 1 3 条に定める秘密会として審議したいと思っております。賛成の方は挙手をお願いいたします。</p> <p>〔賛成者挙手〕</p>
教 育 長	<p>全員賛成でございます。これより会議は秘密会とさせていただきます。</p> <p>なお、第 4 1 号議案については、議案が議会に上程された後に議事録の公開を可能といたします。</p> <p>それでは、内容について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>〔第 4 1 号議案にかかる審議、政策形成過程終了につき公開〕</p>
柴田教育推進課長	<p>第 4 1 号議案、江戸川区立学校設置条例の一部改正についてでございます。資料として新旧対照表を 1 枚おつけしてございます。</p> <p>今回の条例改正につきましては、葛西中学校の改築に伴いまして、平成 2 9 年 4 月 1 日より仮校舎として旧清新第二小学校の施設を使用するため、設置条例の各学校の位置につきまして、葛西中学校の住所を前清新第二小学校の位置に変更するものでございます。なお、改築終了後は、また以前の葛西中学校の住所に戻す改正をさせていただき予定でございます。平成 2 9 年 4 月 1 日施行でございます。よろしく申し上げます。</p>
教 育 長	<p>今の件に関しまして、ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。</p>
上 野 委 員	<p>予想でいいですけど、2 9 年 4 月 1 日から工事が終わって、もとに戻るのはいつごろの予定ですか。</p>
教育推進課長	<p>こちら、2 9 年度、3 0 年度の 2 年間かけまして改築を行います。ですの</p>

上野委員	<p>で、31年4月1日より新校舎の住所に変更をお願いする予定でございます。</p> <p>わかりました。</p>
教育長	<p>他にいかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
教育長	<p>他になければ、第41号議案は原案のまま決定させていただきます。</p> <p>続いて、日程第3、教育関係事務報告にまいります。</p> <p>はじめに、教職員の人事についてであります。人事に関する案件でもありますので、江戸川区教育委員会会議規則第13条に定める秘密会により審議したいと思っておりますが、賛成の方、挙手をお願いいたします。</p> <p>〔賛成者挙手〕</p>
教育長	<p>全員賛成でございます。これより会議は秘密会とさせていただきます。</p> <p>〔秘密会により報告〕</p>
教育長	<p>では、続いて、平成28年度全国学力・学習状況調査の分析結果の概要になると思いますが、報告をお願いいたします。</p>
市川指導室長	<p>それでは、平成28年度全国学力・学習状況調査結果報告、小学校と書いたものと中学校と書いたものがあると思っておりますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>まず、小学校のほうからご説明させていただきたいと思っております。まず表紙をごらんいただきたいのですが、この全国学力・学習状況調査ですが、本年4月19日（火）に実施いたしました。調査対象は小学校ですと6年生の児童になります。そこに全国の対象者数、それから、江戸川区の対象者数を記しました。区内全ての71の小学校で実施しています。</p> <p>調査の目的は、基本は教育施策の成果と課題を検証するというのが大きな狙いでございます。もう一つは、児童・生徒への指導の充実や学習状況の改善等に役立てることでございます。ですから、子どもに返すというところが二つ目の大きな狙いになります。調査内容ですが、大きく二つあります。教</p>

科に関する調査として本年は国語と算数。それから、生活習慣や学習環境に関する調査として児童質問紙、それから学校質問紙を行っています。

それでは、表紙をめくっていただきまして1ページ目をごらんください。まずこちらは、国語、算数それぞれA、Bと二種類あるのですが、Aのほうはいわゆる基礎的な内容、知識に関する問題。それからBのほうは、知識等を活用していく問題というところになります。1ページ目にお示したのは、それぞれの本区の子どもたちの正答数の分布、それから、参考として全国の公立学校の分布の状況と一緒に示させていただいております。

まず、全体的にごらんいただきたいと思うのですが、国語A、それから、国語Bも算数A、算数Bもごらんいただくと、どちらかというとな国に比べて若干ではあるのですが、右側、つまり上位層の子たちが少ないところがおわかりいただけたと思います。特にわかりやすいのは算数Aでございます。算数Aの場合、13問以上、13問から16問の子どもたちのところをごらんいただきたいのですが、全国のほうが江戸川区の棒グラフを上に行っているわけですね。つまりこの間の割合が、全国の割合と江戸川区の子どもたちの割合が若干違うところということになります。ここの差の部分、少しずつなのですが12問以下のところに影響しているというような状況でございます。

したがって、分布の大きな形というか、そういったものは特に著しい差は見られないのですが、若干ではあるのですが、右側、上位層の子たちの割合が少なく、それが中位層、下位層に広がっているというような傾向がございます。これは国語、それから算数Bにも同様に見られるところであると思います。

続きまして、2ページ目をごらんください。先ほどは全体の子どもたちの分布をお示しましたけれども、こちらはそれぞれの教科の領域ごとに全国と江戸川区の子どもたちの状況を比べたものでございます。例えば、国語Aで申し上げますと、二つ目の書くことについては、これは全国の平均を上回っているという状況でございます。しかしながら、読むこと、その下の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、全国を下回っているといった状況でございます。国語Bについては、この三つの領域ともに若干ではあるのですが、全国を下回っているような状況です。算数Aですが、こちらは三つ目の図形については全国を上回っているといった状況でございます。それから、その下、算数Bについては、一番下の数量関係で全国を上回っているといった状況でございます。これらを全体的に教科ごとにならしたものという平均をとったものについて、右側に平均正答率といった形でまとめ

ています。こちらをごらんいただくと、今年度につきましては、区の平均が全国の平均を教科によって若干差はありますが、下回っているような状況が見られています。

3ページ目以降は、具体的に幾つかの問題を抽出してお示ししています。本日は時間の関係で少し、幾つかだけピックアップしてお示ししたいなというふうに思っています。

まず、3ページをごらんいただきたいのですが、こちらは左側の3という問題をごらんいただきたいと思います。こちらは先ほど申し上げた書くことという領域になりますが、これは全国を江戸川区が上回っている書くことの問題の一部でございます。これは上に下書きといったことが書かれていて、それが書き直したらこうなりましたよというのが示されています。書き直した子に対してどういったアドバイスをしたのかというのを選択肢から選ぶといった問題です。紙面の関係で具体的な選択肢は省略させていただいているのですが、これは五つの中から二つを選ぶといった問題でございます。こちらについては正答率でお示したとおり本区の子どもたちが全国を上回っているといった結果でございます。しかしながら、本区の正答率といっても3割以上の子どもたちは間違っていますので、課題としてそこに示したとおりでこういったものを学校等に伝えていきたいなというふうに考えてございます。

それから、3ページの一番右側の8という問題をごらんいただきたいのですが、これは3年生の国語で学習するローマ字の問題でございます。こちらについては、1、2、3、それぞれ問題があるのですが、全て全国をかなり下回っているような状況でございます。ですので、こちらについては、今後当然オリンピック・パラリンピック等もありますし、これからこういったローマ字であるとか英語の学習も始まることですので、改めて意図的・計画的にきちんと指導していく必要があると考えています。

続きまして、少し飛びます。算数の問題の例を紹介したいと思います。5ページをごらんください。5ページの左側、算数Aの7番という問題でございます。こちらは、算数の中でも全国の平均を上回っています図形の問題の一部でございます。こちらは直方体の底の面、底面と垂直な関係にある面を選ぶといった問題でございます。正答は1から5までのうちの1を除いた2、3、4、5が全て正答ということになります。これを全て書くといった問題ですが、正答率は本区が80.1と全国を上回っております。ですので、こちらについては、本区の子どもたちは全国に比べてできていると。しかしながら、できなかった子どもたちに対しては当然課題が残りますので、このと

ころは各学校で改めて指導する必要がございます。

続きまして、算数で大きな課題が見られた問題としてしばらく飛びますが、8ページをごらんください。こちらは算数Bの1番の問題でございます。正方形、長方形の面積を取り扱った問題です。こちらは正方形の面積をそれぞれ縦、横を1センチ短くして1センチ長くすると面積が変わるという例を左側で示して、さらにそれを応用して別の形にしたときに、こういった順序で説明していくとよいですかといった説明を具体的に記述していく問題でございます。こちらは当然、自分たちが問題を解いていく過程とともに、それに沿って説明をするといったことを再現する問題になっています。こちらの正答率は、そこにお示ししたとおり全国を下回っている状況でございます。こちらの大きな要因としましては、もちろん考えるところも大事なのですが、それを文章で表現するというのも大きな課題があると見ています。

したがって、一番下の課題のところには、子どもたちが説明することができるようにするということとともに、日ごろから子どもたちが先生方の説明を一方向的に聞くだけでなく自分たちで問題解決を行うとか、自分の考えを説明する活動を多く取り入れる必要があるといった課題が考えられます。以上が代表的な問題でございます。

それから、9ページ、10ページは例年とっています児童質問紙調査の主なものをご紹介させていただいております。基本的な生活習慣、図書館活用、それから家庭学習時間といったところを掲載していますが、ちょっと特徴的なのが10ページ、家庭学習時間をごらんいただきたいと思います。まず左側の設問15番のほうでは、休みの日に1日当たりどれぐらいの時間勉強しますかといったものです。こちらについては、少数ではあるのですが、一番左側の4時間以上とか3時間以上4時間より少ないといったところについては全国を上回っている。さらには都も上回っているような状況でございます。ですので、これを見ますと、たくさん本区で勉強している子どもたちはいるのだということがわかりいただけるかなというふうに思います。

その一方、右側の24番、家で学校の授業の復習をしていますかをごらんいただきたいのですが、こちら一番右側、グラフの一番右側は全くしていない、その左側が、縦じまのものが余りしていないなのですが、この余りしていない、全くしていないといった回答が全国を大きく上回っていることがわかりいただけるかなというふうに思います。ですので、こういったところが現在本区の子どもたち、特に小学生で言うと大きな課題であると思います。

続きまして、中学校のほうをお願いしたいと思います。中学校のほうも調査日等は一緒ですので、説明は割愛させていただきます。

中学校のまず生徒数の分布でございますけれども、1ページをごらんください。まず、左側縦に国語A、国語Bというふうに掲載させていただいています。こちらについては、小学校の算数のようにはっきり上位層がというところではなくて、部分的に上位層も江戸川区のほうが上回っている部分もあります。国語A、Bに関しては、中学生については小学校ほど差が見当たらない状況にあります。ですから、ほぼ全国レベルというか、同じような水準にあるということが言えると思います。

しかしながら、右側、数学A、数学Bをごらんいただきたいのですが、特に数学Aは形がわかりやすいようにちょっとパーセンテージの示し方を変えていますけれども、特に28問以上については、かなり全国のデータと江戸川区のデータに差が生じています。ですから、明らかに上位層が少ないような状況が見られます。それから、ちょうど真ん中からちょっと下あたりでしょうか。大体21問から左側に行きまして12問あたりが、江戸川区のほうが全国の割合を上回っている部分が目立つかなというふうに思います。ですので、上位層が少ない分、中位から下位層にかけての分布が若干多いというような傾向にあるのかなというふうに思います。

それから、数学Bについても大体真ん中のあたり、これ全国平均は大体6.6問くらいできるのですけれども、大体7問あたりを境目に7問以上できている子どもたちの割合が若干全国を下回っていると。ですが、5問以下については全国を上回っているといった状況です。ですので、先ほども小学校で申し上げたとおり大きく分布の形が違うというわけではないですけれども、少しずつなのですが、上位層が下位層にシフトしているような状況が見当たるかなと思います。

続きまして、2ページをごらんください。まず一番右側が平均正答率をお示ししました。中学校の国語については、国語A、それから国語Bともに全国平均を若干下回ってはいるのですが、ともに差が0.4ポイント、0.5ポイントということで、大きな差は生じていないような状況です。したがって、先ほど1ページ目で示したように、分布も大きな違いは生じていないということが裏づけられるかなというふうに思います。

しかしながら、数学に関しては、数学Aが2.2ポイント、それから、数学Bが2.4ポイント差がありますので、差がついてしまっているような状況でございます。左側に小学校と同様に領域別の結果を示しています。中学校において、領域別で全国を上回っているものは国語Aの一番上、話すこと、聞くこと、それから、三つ目の読むことでございます。

続きまして、中学校の象徴的な問題を幾つか紹介させていただきたいと思

います。まず4ページをごらんください。こちらは本区の子どもたちが、全国の平均を上回っているという問題の例なのですけれども、これは話し合いの活動を再現した問題でございまして、話し合いの結果等を踏まえてどういった発言をするのがいいのかといったようなものを選ぶといった問題でございまして。この話し合いに関しては、まずクラスの意見を一番上の黒板にまとめた意見というところになっているのですが、これを踏まえて、西さんと前田さんという2人が話し合っただけでどういう結論を持っていくのがいいのか、導いていくのがいいのかというような問題構成になっています。こちらは正答は1番になるのですけれども、こちらを選んだ子どもたちは、本区では63.4%、全国では62%ということで1.4ポイント全国を超えているといった状況でございまして。

こちらについては、課題としましては、実際にこの話し合い等の活動を学校はやっていますので、その中でいろいろな見方やそれから、自分に足りなかった視点などに気づくような指導をしていく必要があるといったところが課題でございまして。

それから、国語の中でちょっと全国を下回っている状況が顕著なものをご紹介したいと思います。1枚おめくりいただいて5ページの右側、2番という問題があるのですが、2番の問題の中の左側が1番の問題、右側が3番の問題について正答率を示しています。こちらは雑誌等の記事を踏まえて自分で課題を見つけて、その課題の解決方法を書くと、記述する問題といった構成になります。

こちらについては3番の問題、特に一番左側、イというところをごらんいただきたいのですが、アで問題を設定、課題を設定するのですけれども、アについて学校図書館で調べる場合、必要な本をどのように探しますか。その探し方を二つ書きなさいといった問題です。ですので、まさに本区が推進している読書科の発展的な部分に相当するのかなというふうに思います。残念ながらこちらについては、正答率が全国を下回ったといった状況でございまして。

私どもの分析としては、一つの要因としては、これは自由記述で答えなければならないというのがかなり子どもたちにとってはハードルが高かったのかなというところがございます。今後の課題として、情報収集しながら課題の解決を図る学習について書かせていただいています。

それから、さらに1枚おめくりいただいて、数学の問題を2問紹介したいと思います。まず、左側の1番、数学Aの1番という問題をごらんいただきたいのですが、5分の2掛ける0.6の計算でございまして。こちらについては、

全国を2.1ポイント上回っている状況でございます。ですので、基礎的な指導については全国を上回っているような状況にあると認識します。しかしながら、当然誤りが生じた子どもたちもいますので、引き続き補習等できちんとフォローしていくことが大事であると思います。

その右側、数学Bの3番という問題をごらんいただきたいのですが、こちら自由記述で説明する問題でございます。この問題は二つの自動車が一両価格とか、それからあとその後の運用、1年間当たりの充電代とかガソリン代とかその後の諸費用、そういったものを見て、その諸費用が等しくなる年数が大体何年後なのかというのを求めるために、その使用年数を求めるための方法について説明するといった問題です。ですので、一つの方法、Aを選んだ子どもたちについては、A社とB社について連立方程式をつくって解くと。Iを選んだ子どもたちについては、それぞれ一次関数のグラフを使って、グラフとグラフが重なったところからデータを求めるといったような説明をすればいいのですけれども、これも全国的にかなりレベルの高い問題でございまして、全国が30.3%の正答率、本区についてはそれを5.2ポイント下回る25.1%といった正答率でございました。ですので、こちら先ほど国語のほうでも申し上げたとおり、実際に書いたりとか説明したりとか、そういったところが本区の子どもたちが弱点としていることがよくわかる問題でございます。

以上、具体的に幾つか問題を挙げましたけれども、こういったことを各学校でも分析しています。ですので、これを日々の授業にどう生かしていくかというのがこれから大事になるのかなと思います。生徒質問紙につきましても、小学校とほぼ同様の傾向がございまして、説明は省略させていただきます。

それから、本日お示しした資料については、後日、ホームページ等でも区民の皆様にもご紹介しようと思っておりますが、そのためにも最後9ページ目に学力向上にかかわる主な取り組みということで、現在行っていることを代表的なものだけなので、あわせてお示ししていこうというふうに考えているところでございます。本日はそれぞれについては教育委員の皆様はご存知だと思いますので、説明は省略させていただきます。

教 育 長

ありがとうございました。この学力・学習状況調査の分析結果につきまして、ご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

例えば、他の区の平均正答率とかいうのもホームページでそれぞれ出ているわけですね。

指 導 室 長	<p>基本的には設置している自治体の判断になります。ですから、全て本区と同じようなパターンで出すかどうかはわかりませんが、現在の社会状況からすると、多くの自治体がこういった区の平均正答率などの状況は公表するところが圧倒的に多いと思います。</p>
松 原 委 員	<p>東京都教育ビジョンの一部改定が4月に出ましたね。その結果を見ても、東京都の課題としては、つまり下位層が多いと。まさに中学校の数学がちょっとやっぱりそれに当てはまっている状況で、東京都としては、この下位層をいかにして取り組んでいくかというのが課題になっていますけど、小学校、今、説明の中では、江戸川区と東京都がほぼ同じような状況なので、努力している感じですね。中学校の数学がちょっとやっぱりA問題にしても江戸川区のほうがでっばっていますよね。やっぱり基礎というのをしっかり教えなれないといけないのだなと思いました。</p>
尾 上 委 員	<p>例年、このような学力テストを行っていると思うのですが、本年は例年に比べて何か特筆すべき何か傾向というのは出ておりますか。</p>
指 導 室 長	<p>経年の傾向を分析したのですが、小学校につきましては、年によってかなりでこぼこがある状況です。ですので、実はこの調査、平成19年度からやっているのですが、一貫した傾向は小学校ではなかなか分析しても見当たらない状況です。しかしながら、中学校のほうはこの調査が始まった19年、20年度ごろに比べますと、少しずつ全国に近づいてきている状況がよくわかります。</p>
教 育 長	<p>中学校は国語Aなんかある意味で言うと、ちょっと超えているところもあったり、中学校は上がっていますね。</p>
指 導 室 長	<p>特に数学と国語を比べますと、国語のほうはほぼ平成25年から本年は若干下回りましたが、大きく見ますとほぼ全国平均レベルに達しています。数学はあと一步というところかなと思います。</p>
教 育 長	<p>尾上委員、よろしいですか。</p>
尾 上 委 員	<p>ありがとうございます。もう一ついいでしょうか。</p>

	<p>学力はもちろんね、いろいろ変化も集団の中のでき、いろいろなことがあるかなと思いますけども、あと、最後のほうに家庭学習の時間とかその辺のことを見ると、これ見ると4時間以上勉強している子がいるんだなんて思いながらも、全体的には学習していない子が多いんだなということで、その差がやはり激しいのかなと思いますね。</p> <p>もう一つは、図書館の活用というところでは、読書科ができて5年目ですかね。みんな本が好きになっているのかなと思いながら、やはり図書館の活用というのがまだまだちょっと低いかなと。もう少しいろいろな意味で工夫をしながら、読書科を子どものためにも進めていくという必要があるのだらうかと、そんなふうに感じます。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。国語のほうが小学校も中学校も近づいている感じですね。全国にね。他にご質問、ご意見等はございますか。</p>
石 井 委 員	<p>数学で大きく差が出てくるということは、これは国語力、計算力、それから洞察力、そういうのを全部が必要となるのが数学なので、だから、特に上位層が少なくなるというようなことが出ているだろうと思います。数学をわからせるためには、やはり国語というのをしっかりとたたき込むといいでしょうか、何が問われているのかというのがしっかり理解できない限り、数学は特に太刀打ちできなくなると思います。そうした意味合いでは、全国レベルに追いつきつつある国語というところにしっかりと力を入れてもらいつつ、数学の力も上げていただきたいと思いますか、当たり前のことになりましたけれども、そんなことをやっていただければなと感じました。</p>
松 原 委 員	<p>国語なんですけど、さっきお話出ていましたけども、朝読書というのが結構、定着してきていると思うので、その辺の成果が小中ともに出ているのかなと思いました。数学のほうはちょっとまだ道半ばというか、今、石井委員さんがおっしゃったような感じで、この読書というのはかなりいい方向になっていると思いますね。今、中学校でやっているのは、担任が朝、教室に入って生徒と一緒に読むというそういう習慣化をしているのですよね。</p>
上 野 委 員	<p>読むものは自由なのですか。</p>
松 原 委 員	<p>学校によって違います。大体、自由ですかね。</p>

上野委員	私も石井委員が言ったことが基本だと思います。むしろ小学校のころは、特に国語のほうを優先すべきかなと思いますね。それと、あと今、塾だとかそれに類するところとかもあるじゃないですか。そういうところへ行っている人とか行ける人で行っていない人、行けない人とかというようなものの差はどこかに出ているのですか。
指導室長	<p>これはずばり塾というものではないのですけれども、恐らく推定できるのは、先ほどの家庭学習時間のところをごらんいただきたいのですが、小学校の10ページごらんいただきたいのですけれども、左側の休みの日にどれだけ勉強するかというのが、左側のほうは4時間以上とか、かなり3時間以上とか、大きい子たちは恐らく通塾率がかなり高いかなと思います。ですので、全国に比べて東京都全体も若干高いですし、江戸川区だけではないと思いますけれども、区部はこういった長時間休みの日に勉強している子どもたちの割合は、若干ではあるのですが高い傾向にあると。ですので、例えば塾とかに行っている子は、子どもたちの実態として、土日もかなりお弁当持って長い時間行っている子もいますので、そういったのがこういったデータに出ているのかなと。</p> <p>その一方、二極化という話でございますけれども、全くしていないという子たちに関しては、24番、右側の学校の授業の復習といったところがはっきり出ているかなというふうに思うのですね。ですから、全くしていないとか余りしていないというのは恐らく塾とかそういったところとは無縁で、家でも宿題とかも含めてたくさん勉強できていないような状況があるのかなということはどうかがえます。</p>
上野委員	松原先生に聞きたいのですけども、今言ったような二極化というのですかね。差が余計ついてきたと。そういうものに対する対策というのですかね。小学校と中学校で分けて、どういうふうなことを考えられていますか。
松原委員	はっきり共通していることは、経験から言いますと、やっぱり家庭学習がどれだけ定着しているかということです。
上野委員	家庭ね。家庭で学習するということですか。
松原委員	そうですね。国際数学・理科教育動向調査の教科テストがありますよね。TIMSSと言われているのですけど、その分析によると、日本の高校生

	<p>は1日30分しか勉強しないという、そういうデータもあるのですよね。だから、本当に家庭学習が定着していないと。しかし、PISAの学力調査は、2012年がフィンランドがかなり落っこちてきているのですよね。日本は、これは文科省が言っているのですが、ちょっと回復してきていると。それはやっぱりそれぞれの教育委員会、現場の先生方が努力しているのだというふうに分析がされていますけど、結論はどれだけちゃんと家庭学習を主体的に子どもが習慣化するかという、その辺じゃないでしょうかね。だから、秋田県なんかは家庭学習がすごく定着しているのですよね。</p>
尾上委員	<p>家庭学習は本当にご両親が働きに行っている時代ですから、なかなか難しい、自主的には難しい時代になってきたなと思うのですが、本当に低学年のうちの習慣が、家庭学習にどう結びついているかということが大事なと思います。6年生じゃなくて3年生以下ぐらいの子どもたちにそういうことをしながら進めていくと。それが次第に時間かかりますけどね、自主的にできるようになるのかなと。やっぱり小さいうちにそういうものが身につくかどうかというのが大事なと思うのですけどね。ですから、今回6年生ですよ。</p>
指導室長	<p>東京都の学力調査は小学校で言えば5年生、中学校で言えば2年生なのです。国のほうはその1学年上で、小学校6年生と中学校3年生でやっていますので、そこは小中、2学年ずつでやっております。</p>
尾上委員	<p>これは国、都、一緒なのですが、本当に江戸川区として、少しでも子どもたちが家庭学習等とまた学力が上がっていくということを考えると大変なことかもしれないのですけども、どのような形で進めていくかというのは、もう少し小さい学年の子に何らかの形で進められるものがあると私はいいかなと思います。そうなってくると、数年後は楽しみだなとそんな感じもするのですけどね。大変な経費もかかる大変な努力もいるということではありますけども、そういうことも考えていく必要があるのかなと、そんな思いはいたします。</p>
教育長	<p>1個だけいいですか。質問じゃなくて、ちょっと10ページを小学校のほうを見ていただくと、今思ったのですが、例えばグラフで、江戸川区は、例えば東京都、全国に比べると、2時間以上勉強している子は塾へ行っているせいだと思うのですが、多いですよ。それで、この平均正答率を見ま</p>

	<p>すと、国語Aは全国平均が72.9なのですね。そうすると、2時間以上勉強している子は平均以上というのですね。国語Bは平均正答率が57.8なので、やっぱり2時間以上の子は上へいっている。みんな2時間のところで区切れるのです。恐らく2時間以上勉強している子、塾行っている子が多いのかもしれませんが、この子たちはつまり平均以上、全国平均以上行っているということなのです。</p> <p>それと、実は中学校も大体一緒なのです。ですから、それだけ勉強できるかどうかですね。</p>
指導室長	<p>おっしゃるとおりなのですが、ただ、これはあくまでも区全体を見たときにこういう傾向があって、当然、学校レベルですと、例えば子どもたちとか、あと、教える側の先生たちの特性とかも、実は学校ごとに分析していくと出ることがあります。</p>
	<p>ですので、私どもは区全体の傾向としてお示ししますけれども、まず基本は、それぞれの学校にこのデータが行っていますので、それを分析して、それぞれ自分の学校の子どもたちはどうなのだろう、どう指導が必要なのだろうというのを先生たちが考えていただくのがまず第一歩かなと。ただ、区全体を見ますと、先ほど石井委員おっしゃったように、もとが国語の読解力の部分で、特に課題が著しい問題はただ文章を読むだけじゃなくて、文章と図表を組み合わせて読み取る問題とかそういったものが本区の子どもたち非常に弱い傾向があります。</p>
	<p>ですので、これは簡単にこう、すぐ身につくものではなくて、やはり小学校1年生段階からの積み上げで、いろいろ考えながら発表する学習とかまとめる学習とかいろいろなことをやらないと、総合的に身につかない部分でもあるので、これは長期的に各学校で取り組んでいく必要があると思います。</p>
教 育 長	<p>今年の4月から全校で補習を、全校でもって各学年で週1回以上は補習をやっておりますので、ですから、ちょっと来年はちょっとまた数字を見てみたいと思いますが、そんなところでございますが、でも家庭学習ですね。</p>
石 井 委 員	<p>その流れでいきますと、難しいでしょうけれども、小学生1日1時間、中学生1日2時間勉強しようとかというようなスローガンを立てると効果が上がるのかな。でも、それは区としてはなかなか難しいですよ。</p>
尾 上 委 員	<p>子どもたちって、私も孫がいますけども、1年生は10分、五、六年生は</p>

	<p>60分とかね。そんな話をしておりますけどね、それも口だけでやっているのか何だかわかりませんがね。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>室長と話していますのは、各学校でレベルが違いますよね。ですから、各学校が5%、前の数字より上げて。ちょっと室長、言ってくれますか。</p>
<p>指 導 室 長</p>	<p>考えているのは、各学校に私どもが送るメッセージとして、冒頭ごらんいただいた分布がありますけれども、全国の大体平均から左側の子たちの割合が学校によって違うのです。ですので、毎年毎年こういった調査をしていくわけですから、年々平均を下回ってしまった子どもたちの学校の中の割合を少しずつ減らしていく必要があるだろうと。例えば、一つの例としては、毎年3ポイントずつ下げていこうとか、5ポイントずつ減らしていこうとか、そういった具体的なメッセージが学校に発信できるといいのかなというふうに、今、考えているところでございます。</p>
<p>松 原 委 員</p>	<p>賛成です。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>学校ごとに違いますものね。その区によっても違いますしね。</p>
<p>上 野 委 員</p>	<p>教育の実践という面から考えるとね、やっぱり全国の中の東京都はこうだとか、東京都の中の江戸川区はこうだとかということよりも、江戸川区の中でうちの学校はどうなんだという、その特徴ですね。それを各学校の先生がもっと意識しながらやっていただかないと、江戸川区全体じゃこうだとかというようなことでやるよりも、うちの学校はどういうふうなところに欠点があるとか、長所があるとか、動向はどうかとかという、そういう熱心さが地道なものに続いていくような感じするのですよね。せっかくここでいいものをつくってもらっても、全体で見ていると、ああそうかというぐらいじゃね、困っちゃうのですよね。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>例えば、算数が強くない、ゼロから3問とか5問の子たちは原点ができていないかもしれませんから、そうすると、やっぱりこの上の学校なり社会に対して困るということだと思えるのですよね。だから、そこのところを考えてこの子たち上げてあげたいというか、上げたほうがいいと思いますよね。35問、36問というのは余り違いなくて、ケアレスミスしちゃったのかわかりませんが、そんな気がしますよね。この子たち何とか、そういうことを</p>

<p>教 育 長</p>	<p>思いますね。</p> <p>じゃあ、そういうことで、これからも努力していくということでございますが、よろしいでしょうか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>他になければ、了承させていただきます。</p> <p>続いて、平成28年度教育委員会指導室重点事業に係る取組状況調査・報告についての報告をお願いします。</p>
<p>指 導 室 長</p>	<p>資料はA3、1枚のものをお示ししております。本日は概要版ということでお配りしています。</p> <p>こちらなのですが、私ども指導室として各学校に今年度こういった内容を重視していますので、ぜひしっかりやってくださいというふうに発信しているものの中から幾つかの項目を設定して、実際に年度途中ではあるのですけれども、8月の段階でどこまでやっていただいているのかというのを調査いたしました。その状況を概要にしたものがこの資料でございます。</p> <p>それぞれ小中連携教育から始まりまして、右下の学力向上の取り組み、補習の取り組みまで概要をお示しさせていただきますけれども、本日は時間の関係もありますので、主なものだけ紹介したいと思っています。</p> <p>まず、一番左の上、小中連携教育についてでございますけれども、本日掲載したのは、子どもたちの直接的な交流が行われているかどうかといったものでございます。ごらんいただくと、直接的な交流は含まれていないと、いいえという学校はゼロ校ではあるのですけれども、それぞれまだ検討中であるとか、そういった学校がまだ8月の段階では若干あります。ですので、またこのデータに関しては、各学校にお戻ししようと思っていますので、これを踏まえて各学校でさらに推進していただくようお願いしていく予定でございます。</p> <p>それから、その次、学校図書館につきましては、学校経営方針に記載されているかどうか、それから配分比率、例えば、分野ごとにやっぱりバランスよく蔵書が必要なのですけれども、そういったものが管理されているかといった設問を聞いています。こちらについても、いいえという学校のほうが下回ってはいるのですけれども、まだまだあるような状況ですので、こちらについても各学校に働きかけを行っていきたいというふうに思います。</p> <p>ちょっと飛びますが、真ん中の一番上、オリパラ教育の推進でございます</p>

けれども、こちらはもう既にご案内のとおり、全ての学校でオリンピック・パラリンピック教育レガシー創造プランを設定して、それぞれ進めているところなのですが、特に目玉、重点的なものとして何かやっていることがあるかと聞いたところ、小学校、中学校でそれぞれ小学校の場合は約4割、中学校の場合は約6割で、重点的に行っているものは今のところないといった回答がありました。こちらは今年初年度ということもあるのですが、やはり核となるものがそれぞれの学校で必要かなというふうに思いますので、2020年に向けて働きかけを行っていく必要があるかなというふうに認識しております。

それから、一番右側の上です。読書科の取り組みについてですが、これは現在、区のほうでも読書科のあり方について、また改めて検討しているところではあるのですが、小・中学校それぞれで今、読書科を行うに当たって困っていることということで聞いてみました。小学校、中学校ともにイの読書科の学習指導要領がないと。つまりよりどころになるところがないといったようなところが一番多い数値になりました。

それから、あとは、小学校ですとアの、国語科の活動内容との関係であるとか、あとそれから、ウのどんな活動をしたらよいかわからないといった読書科の趣旨とか内容そのものがわかっていないというような記述がありました。それについては、中学校は若干違うのですが、例えば、中学校の場合は時間数が問題とか、あと頼もしいのは、力の困っていることはないというのが10校あったのですが、といったような回答があったのですが、コメントのところにも書かせていただいています。先ほど申し上げたとおり読書科も全校実施してもう何年もたちますので、今後のあり方とか今後、学校がよりどころになるものについて、今、検討作業進めているところでございます。今後、今年度末には学習指導要領の新しいものが恐らく告示されるであろうという見通しもありますので、その趣旨等踏まえて最終検討に入りまして、いずれこういった各学校、小・中学校が困っていることが改善できるように、区の教育委員会としても対応していきたいなというふうに思っているところでございます。

それから、最後、右下、学力向上の取り組み、ここは補習を運営している教員について問うたものです。小学校では8割ぐらいですね。中学校では大体4割から5割が、全ての教員がローテーションしながらとか、全ての教員がどこかの学年をとった全校体制でやっていることがわかりました。ただ、逆に言うと、そこに相当しないところは一部の教員のみが対応しているというところもあるので、やはり区としましては、区全体の学校で一生懸命やる

	<p>というところも大事な、モチベーションも大事なというふうに思いますので、できることなら全校体制で補習についても熱心に取り組んでいただきたいというふうに発信していきたいなというふうに思っているところがございます。</p>
教 育 長	<p>このことに関しまして、ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。</p>
尾 上 委 員	<p>このアンケートというのは、学校の先生を対象に行ったアンケートになるわけですか。</p>
指 導 室 長	<p>基本は学校対象、つまり校長が答えるものなのですが、基本、校長もしくは副校長、管理職が回答しているものと思います。</p>
尾 上 委 員	<p>そうですか。</p>
教 育 長	<p>学校として出してきたということですね。</p>
尾 上 委 員	<p>たまたま、読書科の関係になるのかなと思いますけれども、お母さん方が読み聞かせというのをやっている学校も全校かどうかよくわかりませんが、あるんですね。そうすると、やはり当番制でお母さん方が結構行って子どもたちにかかわるわけですが、小学校二、三年生までは食いついて聞いているんですね。6年生にまで読み聞かせなんて必要なかしらと、感じているのです。子どもに、高学年に読み聞かせって効果はどうなのでしょうなんて話になったとき、確かに五、六年生に読み聞かせといってもなかなか難しいかなと、自分で読んだほうがまだいいやなんていうようなもう年ごろになっているでしょうし、その辺もきっと校長先生だけじゃなくて、これに携わっている父兄の方々の声なんかもちょっと聞いてみるといいのかななんて感じました。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。</p>
指 導 室 長	<p>具体的な内容は、基本的な考え方とかそういったものは区のほうでお示ししてはいるのですが、取り組みの内容に関しては学校が工夫するというのが最初にあります。今回の調査、ここには掲載していませんが、他の設問で、読書科の活動の中で重視している取り組みということで挙げてもら</p>

	<p>っているのですが、基本読み聞かせをやっているのが小学校ですと45%。中学校ですと9%。</p>
尾上委員	<p>中学校でもあるんですね。</p>
指導室長	<p>読み聞かせについては、小学校一、二年生は恐らく反応がいいですね。なので、恐らく読み聞かせをされる方も、何か言うたびに子どもたちがわあとかやったりとかいろいろなことやりますので、すぐ、ああこれがよかったなとわかるのですけれども、だんだんそれを発達段階とともに隠します。ただ、前回ビブリオバトルの話もありましたけれども、たとえ高学年でも小学生でも中学生でも、人の選んだものを聞くというのはまた別の意味もありますので、恐らくボランティアで読み聞かせされる方は、反応がなくてやりづらいわとかそういうお気持ちだとは思っているのですけれども、実は子どもたちにとっては非常に意味があると思うのです。ですので、ぜひ頑張ってくださいとありがたいなと思うのですけど。</p>
尾上委員	<p>ぜひともそういう声を聞かせてあげられると、ああそうかと思って、反応していなくても頑張ろうと思うかもしれませんね。</p>
教育長	<p>聞いていて恥ずかしさもあるのでしょうかね、きっとね。なんかそこにこうやってうなずいてね、ちょっと思春期に入ったりもしていたと思いますけどね、やりづらいかもしれませんね、確かに。</p>
上野委員	<p>やっぱり読書科関係なのですが、まずコメントのところの読書科推進委員会というのは、どういう人たちで構成されるのですか。</p>
中山統括指導主事	<p>本区の校長先生方、今年は全5名とそれと学校図書館スーパーバイザーの方、それから大学の先生とあと、私たち事務局です。</p>
上野委員	<p>そうですか。もう始まっているのですか。</p>
統括指導主事	<p>ずっとやっていたのですけど、今後の改定の作業は2年ほど前からです。</p>
上野委員	<p>今までやっていて、どのような率直に言って感じがしますか。</p>

教 育 長	どうい改定をしていくのということで、どうですか。
統括指導主事	今までは、本好きな子どもというようなことで、本に親しむお子さんとかというのは明らかにアンケートでも出てきておりまして、国の調査でも出てきておりますので、今度は本で学ぶ子ということに重点を置きましょうということで、今度の改定作業を進めているという状況でございます。
上 野 委 員	本で学ぶ。
統括指導主事	はい。それは、先ほど指導室長がお話しさせていただいた図書館もある程度整備を行って、読み物、そこで物語の本が主でうちの図書館は置いてあったのですが、少し調べる、何かを見て調べるというふうな学習に移行できていけば、自分なりの課題を見つけて発見する学習に移行できるといいですねということで、今ご示唆をいただきながら改定作業進めている状況です。
上 野 委 員	そのところでいいですか、続けて。 アンケートのほうで、両方とも一番多かったみたいな読書科の学習指導要領がないというのだけど、指導要領がないというのは、どういうことなのでしょう。
指 導 室 長	恐らく回答された学校の思いとしては、学習指導要領ですと何年で何をやりますとか、この領域ではこういう指導をしますとか具体的に書かれているわけですね。例えば先ほどの算数ですと、小学校2年生で掛け算、九九をやりますとかそういうのがはっきり学年ごとに示されているわけです。 ただ、読書科の場合は、今まで基本的な考え方とか活動はこういうものという例示はしているのですけれども、具体的に何年生で何をやりなさいなんて縛っていないのですね。ですので、学校が主体的にやっていただけるのであれば、かえってそういうほうがやりやすいかなというふうに思います。ただし、学校が例えば読書科に対して受け身ですと、具体的に何をやったらいいのか、これからどうしましょうから始まりますので、恐らく困るパターンはあるのかなと。ですから、恐らく今まで委員会でも分析しているのですけれども、学校によって取り組みの温度差がかなりありましたので、それはこのアンケート結果にも出ているのかなというふうに思います。
上 野 委 員	中学生も含めて図書館で自分の好きなものを選んで、最初、偶然かどうか

	<p>は別にして、好きなものを選んですごく興味を持つと。興味を持つことによって、偏ってもいいんじゃないかと。むしろ私は小学校の五、六年生の話がさっき出たのですかね。尾上先生言った、五、六年生というのは小学校のことだったのですか。</p>
尾上委員	<p>そうです。</p>
上野委員	<p>そのころから上は、特に個性が出てきていると思うのですよね。だから、知識教育で教科書その他で学校で指導要領などもきちんと決めて平均的に教えるということはもちろん大切なのですが、それとは別に図書館に行ったり、自分の好きなものをおもしろい、そこへ入り込んでいくというようなことも私は今の教育で必要じゃないのかなと。その点がむしろ欠けているんじゃないかなと。それこそ個性といいますか、好きこそ物の上手なれといいますかね。自分はこれが好きなのだと自分が気づくこと、それが非常に大切なんじゃないかなというふうに思っているものですから、指導要領というのも余り一般教科書の授業と同じようなそういう何かバランスをとっていこうというような要領よりも、どういう本をいろいろバランス並べておいてあげるかというほうが大切じゃないかなと思いますよね。どうですか、松原先生とか。</p>
松原委員	<p>そう思いますね。</p>
教育長	<p>恐らくある程度のレベルは行っていて、自分の好きなものに行くというのが一番いいのでしょうけど。上野委員はそういうことをお話になっているのだろうと思いますよね。</p>
上野委員	<p>そういうことです。何もそれは文科系ばかりとは限りません。理工系でも何でもやってみて、おもしろいなと思ったら次から自分で探してその先に行くというかね。そんなところですよ。</p>
松原委員	<p>補習教室なのですが、大体どんな感じでやっているのですかね。曜日とかあるいはテストの前とか。基本的に学校独自で多分やっていると思うのですが。</p>
統括指導主事	<p>小学校につきましては、定期考査等ございませんので、基本的には週に 1</p>

	<p>回、各学年で場合によっては1回以上で毎日やっている学校もあります。中学校のほうに関しましては、定期考査の前にまとめ取りとしてやられているところもございますし、週2回やられているところもあります。傾向としましては、中学校のほうにまとめ取りをしていますので、1回1回の補習の時間が長いというような傾向がございます。</p>
松原委員	<p>土曜スクールとは別ということですね。</p>
統括指導主事	<p>本区で行われておりますサタデープロジェクトといった土曜補習のことがあります。それは35回の中に回数を含めてもよいということですが、長期休暇中の補習に関しましては入れないということです。</p>
石井委員	<p>幾つかあるのですが、まず、小中連携教育について伺います。小学校、中学校、はいと答えているパーセンテージから学校数を算出して、連携する検討中というのはまだ実際に動いていないというふうに考えますと、小学校が大体9校がまだやっていなくて、中学校が6校やっていないということになるかと思えます。</p> <p>それで質問なのですが、残っている中学校6校の周りに連携できる小学校、つまり6校の周りにまだ連携をしていない9校というのが位置しておりますか。質問の趣旨は、中学校が連携したいと思っても小学校側がどこかの中学校が連携しているというそういう可能性というのはありますか、どうですかという質問なのですが。</p>
指導室長	<p>昨年度末に学校と調整をしまして、中学校、小学校の組み合わせがかっちり決まっています。ですので、例えばある中学校はA小学校、B小学校、C小学校の三つと連携とか、完全にグループ分けができていますので、ですから、例えば、ある中学校がある小学校と連携しているから他とは対応できないのだとかそういったことはございません。あくまでも具体的な検討が進んでいないとかそういった状況かなというふうに思っています。</p>
上野委員	<p>組み合わせの中で、そういう意味なのですね。</p>
指導室長	<p>そうです。決まっています。</p>
石井委員	<p>ありがとうございます。</p>

	<p>次は、体力向上の取り組みについてなのですが、といいましょうか、全体にかかわることなのかもしれないのですが、アンケートの怖いところは、アンケートをとる側の趣旨というのが反映されるといいましょうか、聞き方でもって答えが限定されるというのがちょっと怖いなと思っているところもあります。体力向上の取り組みについてでいきますと、聞かれたことが必要な用具がそろっているか、補助運動が効果的であると実感できていますかというようなことなのですが、これは取り組みについてということであれば、取り組みを行っているとかいないとか、行っているのであればどんな取り組みを行っているかというような、そんな質問が来るのが普通かな、自然かなと思ったのですが、そこら辺は、質問の設定の仕方というようなところで。</p>
統括指導主事	<p>本区の体力向上に向けた重点事業の一つといたしまして、小学校は休み時間における運動遊び、それで中学校に関しましては、保健体育の授業の開始時5分間から10分間の補強運動というふうなことが確定しているという条件の中でのアンケートを実施させていただきました。</p>
石井委員	<p>なるほど。わかりました。</p>
教 育 長	<p>小学校の休み時間の外遊びというか、遊びが効果的であるかというのは聞いているのですか。</p>
指 導 室 長	<p>小学校の場合はどういった校内体制で進めているかとか、あとそれから、1回にどのぐらいの子どもたちが遊んでいるかとか、後は具体的に遊ぶ場所はどこか、あと、今日書かせていただいた用具のこと、あとそれから、これはまた後日改めてご報告させていただきますけれども、体力・運動能力テスト等で投げる動作というのが今東京のほう非常に弱いので、その投げる動作を取り入れた遊びをしているかとか、割と小学校のいわゆる体力・運動能力にかかわる部分に特化した設問にしていますので、あえて小中共通にはしていないような状況でございます。</p>
石井委員	<p>三つ目、これ多分、最後になると思うのですが、学力向上の取り組みについてということなのですが、この見せ方でいきますと、これ中学校の先生もっと頑張ってくれないと困るよねというふうに読み取れてしまうのですけれど、でも、考えるべきファクターがもう一つあって、部活動のなんて</p>

指導室長	<p>いいでしょうか、指導なのですね。そんなところでうまく持っていくことはできないものでしょうかね。つまりこれはやっていないのではなくて、部活動でもって積極的にかかわっている人が多いのですよというようなそういう種類の見せ方も足すことはできないでしょうか。</p> <p>現実にはちょっと難しいかなと思います。部活動のことに関しても、当然、部活動も主になって顧問している場合もありますし、いわゆる管理顧問といってサブ的に動いている方もいらっしゃるので、そのあたりをちょっとこのデータに生かすというのはなかなか難しいかなというふうに思います。このデータなのですが、先ほど私の説明の中で全ての教員がというところで、小学校8割、中学校はみたいな説明させていただきましたが、それだけ聞かれると恐らく中学校頑張れよというふうに聞こえるのかなと思います。ただ、実際は小学校の場合は全科の教員、それから中学校の場合、教科担任というところもあるので、多少やむを得ないかなというところがあります。</p> <p>しかしながら、我々の思いとしては、中学校、確かに教科担任ではあるのですが、補習の対象になっているお子さんというのは、ほとんどが小学校段階の学習に課題があったりしますので、ですから、あくまでも授業ではなくて補習というところなので、やっぱり可能な範囲でいろいろな先生が目をかけていただくというのが大事なのかなというところもあるので、あえてちょっと厳しいように受け取られることはあるかなとは思っていますが、ちょっと頑張ってくださいというメッセージを送りたいなという思いもあります。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。恐らく中学校のほうも全教員がこういう補習教室について認識を持ってほしいという思いはあるのですよね。そういうことですよね、皆さんね。ということだと思います。</p> <p>じゃあ、これよろしいですか。大分ご意見いただいてありがとうございます。では、ただいまの報告事項を了承させていただきます。</p>
指導室長	<p>すみません。教育長、申しわけないです。追加で一つだけご報告させていただきます。実は前回のいじめ電話相談のときに、1点ご質問をいただきまして、それのお答えだけちょっとさせていただきます。</p> <p>ご質問いただいたのは、今年度9月が4件と他の月に比べて多かったのですが、こういった傾向が今までもあったのかと、経年の傾向ということでご質問いただいたかと思えます。</p> <p>それについて確認したところ、例年、年ごとに件数が多い月に非常にばら</p>

教 育 長	<p>つきがありまして、一貫した傾向というのではありませんでした。ちなみに、昨年度は、一番多かったのは8月、12月。それから、その前の年は、26年度は6月、7月が多かったというぐあいで、年度によって多い月にはばらつきが若干あるというところでございます。ということで、何か夏休み明けということで課題があるのかというようなご指摘だったかと思うのですが、ちょっとこのデータからは因果関係は読み取れなかったということでございます。</p> <p>よろしいでしょうか、では、報告を受けました。 では、これで今日の定例会は終了させていただきます。 ありがとうございます。</p> <p>閉会時刻 午後2時30分</p>
-------	---